

つるおか 宏 祥 鶴岡ひろよし県議会レポート

発行/自由民主党千葉県議会議員会 〒260-0855 千葉市中央区市場町2番13号 電話 043(227)7411

2月県議会・予算委員会

二宮川流域の治水急げ

茂原市選出の鶴岡宏祥議員は、2月県議会の予算委員会に登壇。二宮川流域の治水対策、県道茂原大多喜線の渋滞問題、農業と観光の連携、農地の集積など、令和4年度予算案に関わる身近な課題について県当局の姿勢をたずねた。特に二宮川水系の治水対策では、流域全体を考えた広域導水路の必要性を改めて訴えた。鶴岡議員の質疑と要望を中心に伝える。



2月県議会予算委員会で質問する鶴岡議員

推進している。茂原だけでなく二宮川流域全体での取り組みが重要と考える。そこで伺う。流域治水の主な対策は、どういふものか。

鶴岡議員 河川整備については、中下流域は令和6年度末迄、上流域・支川は令和4年度から新規事業化し、令和11年度末迄の完成を目指しています。流域対策については、中流域では田んぼダムの試験施工や各家庭での雨水貯留施設の普及促進などを行っています。上流域では、浸水リスクの高い地域における建築に関する条例等の策定を進めているところです。

また、12月には、茂原市議会議長名で、千葉県選出の国会議員に対して要望書を提出し、治水事業の強力な推進、二宮川河川改修事業の早期完成のため、大幅な予算増額を図ること併せて、中域から太平洋まで伸びる新たな導水路(河川)整備の検討」を要望している。

二宮川の流域治水対策
鶴岡議員 令和元年10月25日の大雨では、二宮川や阿久川が氾濫し、茂原市街地で甚大な浸水被害が発生した。県では、この水害と同規模の降雨に対して、流域内町村と連携して二宮川流域浸水対策特別緊急事業、また、中小河川としては全国に先立ち二宮川水系流域治水プロジェクトを

県土整備部長 流域治水プロジェクトに位置付けられた主な対策としては、河川整備や内水対策、雨水貯留対策のほか、ハザードマップやタイムラインの作成、被害対象を減らすための土地利用施策が挙げられます。流域内の地域特性を踏まえ、丁寧な説明のうえ、合意を得ながら進めています。

長生広域導水路の検討
鶴岡議員 二宮川流域浸水対策特別緊急事業は、そもそも床上浸水ゼロを目指す

長生ブルーライン
鶴岡議員 高規格道路の長生グリーンラインに対し、

長生ブルーライン
は、地元の悲願であることを、県当局としても十分ご理解いただき、長生広域導水路の実現に向けて、真摯に検討を進めるよう強く要望する。県内全域の内水対策を進める担当部署を設置し、広域治水対策を各部署が支援する体制が必要と考える。

県道 茂原・大多喜線 様々な課題の解決促す

県道茂原大多喜線の対策
鶴岡議員 県道茂原大多喜線は、国道128号と一体となって私の地元である茂原市の中心部を南北に縦断し、市内外の多様な交通と連携を支える道路ネットワークを担う大変重要な幹線道路である。

県土整備部長 県道茂原大多喜線については、朝夕の時間帯を中心に渋滞の発生が確認されており、茂原市早野地先の交差点で、交差点改良事業を進めています。

県土整備部長 河川整備については、中下流域は令和6年度末迄、上流域・支川は令和4年度から新規事業化し、令和11年度末迄の完成を目指しています。

長生広域導水路の検討
鶴岡議員 高規格道路の長生グリーンラインに対し、

長生ブルーライン
は、地元の悲願であることを、県当局としても十分ご理解いただき、長生広域導水路の実現に向けて、真摯に検討を進めるよう強く要望する。県内全域の内水対策を進める担当部署を設置し、広域治水対策を各部署が支援する体制が必要と考える。

長生ブルーライン
は、地元の悲願であることを、県当局としても十分ご理解いただき、長生広域導水路の実現に向けて、真摯に検討を進めるよう強く要望する。県内全域の内水対策を進める担当部署を設置し、広域治水対策を各部署が支援する体制が必要と考える。

現在、令和6年度までの開通に向けて圏央道が整備中だが、県でも長生グリーン

ラインの整備を進め、令和5年度には、県道茂原大多喜線と接続する予定です。しかし、県道茂原大多喜線は、通勤時間帯に、茂原市中心部で渋滞が発生しており、この状況で長生グリーンラインが接続すると、渋滞の拡大が懸念される。そこで、県道茂原大多喜線については、4車線化も含めた渋滞対策が必要と考

えらうか。
県土整備部長 県道茂原大多喜線については、朝夕の時間帯を中心に渋滞の発生が確認されており、茂原市早野地先の交差点で、交差点改良事業を進めています。

県土整備部長 河川整備については、中下流域は令和6年度末迄、上流域・支川は令和4年度から新規事業化し、令和11年度末迄の完成を目指しています。

長生広域導水路の検討
鶴岡議員 高規格道路の長生グリーンラインに対し、

長生ブルーライン
は、地元の悲願であることを、県当局としても十分ご理解いただき、長生広域導水路の実現に向けて、真摯に検討を進めるよう強く要望する。県内全域の内水対策を進める担当部署を設置し、広域治水対策を各部署が支援する体制が必要と考える。

長生ブルーライン
は、地元の悲願であることを、県当局としても十分ご理解いただき、長生広域導水路の実現に向けて、真摯に検討を進めるよう強く要望する。県内全域の内水対策を進める担当部署を設置し、広域治水対策を各部署が支援する体制が必要と考える。

要望
早野交差点の改良は

要望
早野交差点の改良は

要望
早野交差点の改良は

要望
早野交差点の改良は

要望
早野交差点の改良は

農業と観光の連携図れ

千葉の魅力アップへ

外房線の利用促進望む



再質問と要望を述べる鶴岡議員

車窓からの田園風景
鶴岡議員 千葉県は、車ではなく、電車がいないのではないかと。車窓からの田園風景は千葉県観光の魅力であると思うがどうか。

商工労働部長 千葉県は首都圏にありながら豊かな自然や郷愁を誘う風景を数多く有しており、このような魅力をいっまでも残し、県内外に広く情報発信していくとともに、観光コンテンツとしての誘客効果を更に高めていけるよう取り組んでまいります。

要望 観光振興の施策に、是非、車窓からの田園風景を、本県観光の魅力として位置付けていただくことを要望する。

荒廃農地の現状
鶴岡議員 一方で、高齢化による担い手不足から、耕作放棄地や荒廃農地が増えている。車窓から見える田園風景は、どこでも美しい水田ではなくなりつつある。

千葉県内の荒廃農地の現状はどうか。
農林水産部長 本県の令和2年における荒廃農地面積は、1万3千457畝であり、耕地面積の約11%を占めております。

荒廃農地解消への取組
鶴岡議員 荒廃農地の解消に向けて、県ではどのように取り組んでいるのか。
農林水産部長 県では、農業振興地域内にある荒廃農地を借りて耕作する者が、農地を再生するために行う草刈りや抜根、土づくりなどの経費や、再生後園芸作物や飼料作物を栽培する場合の機械整備へ助成を行っております。

また、農地の耕作条件を改善する事業の中で、荒廃農地を再生する場合には、畦畔除去や暗渠排水等の工事に加え、再生費用についても助成しております。

農村の景観維持へ
鶴岡議員 農村の良好な景観を維持するため、県ではどう取り組んでいるのか。
農林水産部長 県では、国の交付金を活用し、農業者や地域住民などが共同で行う農地や農道の草刈りなどの地域資源の保全活動や、花壇の設置を始めとした景観植物の植栽等の取組に対し、助成を行っています。

要望 千葉の豊かな田園風景を多くの人に継いでほしい、後世に引き継いでいけるよう、荒廃農地の解消に努めることを要望する。

鉄道の利用促進
鶴岡議員 本県には充実した鉄道網が整備されており、脱炭素社会の実現に向けても、鉄道利用の促進が重要である。観光振興や地球温暖化対策の観点から、鉄道の利用促進を図るべきと考えるがどうか。
総合企画部長 鉄道は、観光地への移動手段として観光の振興に大きな役割を担っており、また車と比べ、一人当たりの二酸化炭素排出量が約8分の1と少なく、環境負荷の少ない乗物であると認識しています。

県では今後とも、サンキューチャージパスの発売など、外房地域の観光振興の面でも、欠くことのできる面でも、今後どう進めていくのか。
農林水産部長 県では、地域の事情に精通した市町村や土地改良区などの関係機関の協力を得ながら、効率的なマッチング業務を行うことにより、農地中間管理機構による農地貸借の拡大に取り組んでまいります。

外房線特急の増発
鶴岡議員 南房総に行くためには、内房線と外房線の二つのルートがあり、沿線に魅力的な観光地が多い。私の地元・茂原市を通る外房線沿線には、多くの文化・歴史資産や観光資源があり、素晴らしい田園風景が広がっている。
しかし、東京方面からの特急わかしお号が、日中に2時間に1本しかなく、利用しづらいのが現状だ。
外房線の利用促進に向け、特急列車を増発すべきと思うがどうか。
総合企画部長 JR外房線は、外房地域の観光振興の面でも、欠くことのできない路線ですが、利用者数の減少傾向を踏まえ、利便性の向上を図ることが利用促進につながることを重要であると考えます。

このため、県では、千葉県JR線複線化等促進期成同盟の要望活動でJRに対し、特急列車の増発など、外房線の利便性向上への取組を求めています。

要望 鉄道の利便性を良くするために、利用者を増やしていくことも大事だと思う。そのため、県職員の皆さんが、通勤や出張、旅行の際に、積極的に鉄道を利用することが、利用者の増加につながると思うので、ぜひ協力をお願いしたい。

千葉の魅力発信へ
鶴岡議員 田園風景をはじめとした、様々な千葉の魅力を広く伝え、その良さを理解していただくために、どう取り組んでいくのか。
知事 本県の魅力を深く理解して頂くためには、「景色」や「産品」を発信することに加え、その背景にある人や暮らし、文化・歴史などのストーリー発信の必要があると考えます。こうした考えに基づき、テレビ、ラジオ、SNSをはじめ、県の特産品を幅広く活用し、県内外に発信してまいります。

要望 様々な媒体を活用し、観光や農林水産物などの魅力を、また、車窓からの田園風景の魅力を、県内外の方々に向け、しっかりと伝えていくために、関係部局間の連携を密接に図り、全庁丸となって戦略的な発信に努めていただきたい。

管理機構による貸付状況
鶴岡議員 近年、高齢化などにより、耕作できなくなった農地を、円滑に貸借することが重要となっている。そこで、農地集積の中心的な役割を果たす農地中間管理機構が設立された。農地中間管理機構による農地の貸付の状況はどうか。
農林水産部長 農地中間管理機構による貸付面積は、本年度中に新たに貸付を始める1,500畝程度の農地を加えて、令和3年度末時点で、約6,600畝となる見込みです。

日本の農業を守る 農地の集積推進は急務

要望 村や土地改良区などと協力し、農地中間管理機構の機能が最大限発揮されるよう取組むことを要望する。

耕作者の不足により、耕作できない農地が全国で増加しており、担い手への農地集積が進まなければ、近い将来、日本の農業は危機な状況になると考える。

県としても、市町村や土地改良区などと協力し、農地中間管理機構の機能が最大限発揮されるよう取組むことを要望する。

地域の思いを県政に

●茂原市や県政のご相談、ご要望をお聞かせください

鶴岡ひろよし 県事務所

〒297-0037 茂原市早野2130 TEL.0475(27)2601/FAX.0475(26)2839